



男性看護師として働く

◇ 今回は、武田直樹さん（岐阜大学看護学科・医学部附属病院）のレポートです！

私は現在、岐阜大学医学部附属病院の西5階病棟で看護師として働かせてもらっています。本稿では、関高校の皆さんに私がなぜ男性看護師という進路を選んだか、また勤務している岐阜大学医学部附属病院がどんな病院かについて書かせていただこうと思います。

なぜ男性看護師を目指したのか

高等学校入学時、私は医師を目指して勉強していました。しかし、どうしても学力が追いつかず、進路に迷っていました。そんな中で、当時の担任教師から看護師という進路もあることを教えていただきました。

皆さんもご存じの通り、男性看護師は近年増加してきていますが、まだまだ女性に比べて少ないのが現状です。看護師に対して、女性が就く職業だという考えを持っていらっしゃる方もいると思います。



私も高校生のときには看護師

を目指すと決めるまでに大きな壁となっていたのは、この男女比率の差であり、看護師は女性が働く職業であるという固定概念があったことでした。そこで、全国で男性看護師が働いているかを調べてみると、男性看護師の割合は年々増加しており、全国の看護師総数約107万人のうち、男性看護師は約6万人が働いており、男性の割合は10年前の約4%から約6%まで上昇しており、男性看護師の活躍の場は広がってきており、働きやすい環境が整ってきつつあることを知りました。また、私は岐阜大学医学部を志望していたため、看護学科の男子学生を調べてみると、0人の年がほぼないことを知り、進路のひとつとして考えるようになりました。

私が医師を目指すようになったのは、治療という行為を通して人の役に立つことができるという点でした。この人の役に立つという部分においては、看護師は医師よりも患者さんの近くで治療に関わり、人の役に立つことができる職業だと、調べていく中で魅力的に感じるようになっていきました。

高校3年生のときには、医学科という進路と同時に看護学科という進路も考えており、どちらの進路に進んでも医療の世界で人の役に立つことを目標とするようになっていきました。そして、岐阜大学医学部看護学科に進学することとなり、人の役に立つ男性看護師を目指して勉強する日々を送っていました。

岐阜大学医学部附属病院とはどんなところか

岐阜大学医学部附属病院は岐阜県下唯一の医学部附属病院、特定機能病院として東海地方でも最高レ

ベルの質の高い医療を提供しています。特定機能病院とは、厚生労働省より「高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院」と位置付けられており、地域医療の発展に貢献することができる体制が整っている病院として国から認定されている病院であると言えます。

当院は2025年に向けて「最高のサービスを患者に届ける最高の病院の確立」および「高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献」を目標として将来ビジョンを立てて、病院全体で取り組んでいます。また、中部地方で二番目に高度救命救急センターに指定されており、多発外傷や熱傷など高度な集中治療が必要な重症患者の受け入れ、治療を行なっています。

さらに、2011年から、岐阜県のドクターヘリ事業の基地病院として本格運用を行なっています。年間365日、休みなしの出勤体制を整えており、本院高次救命治療センターのドクター、ナースがヘリに搭乗し、現場での救急医療や重症患者の搬送に活躍しています。昨年度も年間400回以上のフライト実績

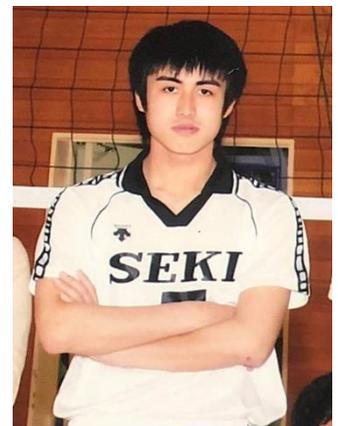


があり、様々な現場で迅速な対応によりたくさんの患者さんを救命することができています。

続いて、ドクターカーの導入も検討されており、今後ますます地域医療へ貢献できる場所が増えていくと思います。高度医療に従事する看護師ですから、専門的知識をもち、「思いやりのある看護の実践」を目標として看護部全体で取り組み、専門看護師や認定看護師の資格獲得なども支援しており、看護という面でも地域医療に貢献できるように取り組んでいる病院です。

最後に

高校生になると、学業に加えて部活動も活発になり、さらにボランティアなど活動の場が広がり自分の可能性が広がっていく時期でもあります。将来のことを考えて、進路を考えなくてはならず、悩む時間も出てきます。高校生で決めた進路で生きていかななくてはならないとは言い切れませんが、高校生の間に頑張ったことや悩んだこと、苦労したこと、挫折したことなどの経験がその後の人生に大きな影響を与えることは、私自身実感しているところです。そんなときに、関高校の先生方は真摯に相談に乗ってくださり、それぞれの希望の進路が見つけられるように支援してもらえます。私は関高校で学ばせていただいたことで、看護師という進路を見つけ、現在の岐阜大学医学部附属病院で働くことができています。今、進路に迷っている方は、進路指導の経験が豊富な先生方に相談して、これまでの自分の経験を整理して、自分に向き合ってみる時間をぜひ作ってみてください。先生という他人から指摘されることで気付かなかった自分を知ることができますし、様々な視点で自分の進路というものを見つめることができると思います。



高校時代はバレー部

関高校で学ばれる方が希望の進路を見つけ、日々勉強や部活動に励むことができ、充実した高校生活を送れることを期待しています。



岐阜大学医学部軽音楽部に入部した関高生一同（看護学科）